

ペット一般教養Ⅰ

動物看護科

1 年次

後期

15 時間

必修

共通科目

1 単位

講義

教養的科目

■授業の概要

就職セミナー(業界就活事情、社会人の心構え、履歴書かき方、自己分析方法)

■到達目標

社会人の心構え、履歴書の書き方などの理解をする

■成績評価の方法等

出席点、提出物

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	履歴書の書き方 前提、履歴書選び方、注意点、自己PR・志望動機・特技・趣味以外の記入方法
3～4	ペット業界の現状 就活ステップ、就活スケジュール
5～6	自己分析 自己年表、長所・短所シート作成
7～8	自己PR ポイント、書き方
9～10	履歴書作成
11～12	志望動機 ステップ、書き方ポイント
13～14	履歴書作成
15	履歴書作成・完成 履歴書完成した学生は志望動機

特別活動 I

動物看護科

1 年次

通年

60 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

教養的科目

■授業の概要

スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う

■到達目標

協調性、課題発見力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、提出物、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～5	球技大会
6～8	専科説明会
9～10	衛生管理
11～12	ペット防災訓練 衛生管理
13	資格試験（N A V A ペットケアアドバイザー）
14～43	スクールフェスティバル 出店の準備から本番まで行う
44～50	校外学習（特定飼養動物）
51	進級説明会
52～53	衛生管理
54～55	衛生管理
56～60	I P C グループ ゼミ発表会

共通基礎

動物看護科

1 年次

前期

60 時間

必修

共通科目

2 単位

実習

専門基礎科目

■授業の概要

犬との接し方や道具の使い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な知識・技術を学ぶ

■到達目標

犬を扱う上での基本的な知識。技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	犬とは
3～5	社会人マナー、施設利用方法・案内、レクリエーション
6	人と犬の歴史 犬の起源、進化
7	犬の形態機能学的特徴
8	飼育する責任（動愛法とは、意識する項目）
9～10	レクリエーション
11	手入れと健康
12	飼育記録の必要性、記入方法、健康管理①
13～15	犬の触り方、行動管理
16	健康管理②
17	日常ケア①
18～20	飼育実習①(健康チェック、ケア、サークル出入)
21	健康管理③
22	日常ケア②
23～25	飼育実習②(健康チェック、ケア、散歩)
26	衛生管理
27	教材配布
28	食事管理
29～30	飼育実習③(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)

31	週末実習について（インターンシップ、飼育管理実習説明）
32	ベISINGとは、ベISING方法・注意点
33～35	飼育実習④(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)
36	ブラッシングとは
37	交通安全
38～40	飼育実習⑤(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー)
41	季節ごとの管理 動物に影響を与える条件、各季節の注意点
42	施設利用方法注意
43～45	飼育実習⑥(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー)
46	爪切り、イヤークケア 道具の使用方法・注意点
47	犬の本能行動の問題 本能と習性、社会構造、コミュニケーション、社会的距離、問題行動、問題行動の原因
48	教材配布
49～50	飼育実習⑦（各自今までの内容を復習しながら実施）
51～53	飼育実習⑧（各自今までの内容を復習しながら実施）
54	総復習
55	自己啓発
56～57	飼育実習⑨（各自今までの内容を復習しながら実施）
58	総復習
59	定期試験
60	今後について

各科実習

動物看護科

1 年次

前期

60 時間

必修

共通科目

2 単位

実習

専門基礎科目

■授業の概要

所属する科に関わらず、美容、訓練、看護、繁殖の基礎を学ぶ

■到達目標

美容・訓練・看護・繁殖の基礎的知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～2	グルーミング ・ブラッシング、ネイルカット、イヤークケア
3～4	バイシング ・肛門腺位置確認、肛門腺絞り ・シャンプー手順 ・ドライヤー使用方法
5～6	クリッピング ・趾裏、お腹、肛門クリップ
7～8	鉗の開閉 ・趾周りカット ・趾裏カット、肛門周りカット
9～10	部分カット 桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳飾り毛、尾カット
11～12	アタッチメントコームを使用したトリミング方法 スピードトリミング（鉗仕上げなし）
13～14	リボン付け
15～16	シャンプーセット シャンプー、ドライ、趾周りカット
17～18	グルーミング復習 ・ブラッシング、ネイルカット、イヤークケア
19～20	犬をしつける目的と訓練の進め方 ・しつけと訓練の違い ・褒める時・叱る時のポイント ・リーダーシップをとるために
21～22	基本服従 5 項目（命令の出し方） ・指示の出し方 ・従わなかった時の対応の仕方 ・リード操作の仕方、注意点
23～24	しつけの時期・時間、遊びの重要性 ・パピートレーニング ・犬との遊び、その重要性 ・犬が喜ぶ訓練を心がけるために
25～26	モチベーター・報酬の種類、与える際の注意点 ・メリット・デメリット

27～28	基本服従 5 項目の教え方手順 ・ポイント、注意点
29～30	基本服従 5 項目を利用した遊び
31～32	保定とは ・立位、座位、横臥位の手順、注意点 ・口輪装着方法 ・体重測定
33～34	耳道洗浄・歯石除去・眼洗浄 手順、注意点
35～36	薬剤の投与Ⅰ（錠剤、液剤、点眼、点耳） 手順、注意点
37～38	バイタルサインの測定（体温、脈拍、呼吸） 手順、注意点
39～40	薬剤の投与Ⅱ（粉剤、軟膏） 包帯法の手順、注意点
41～42	緊急対応 手順、注意点
43～44	犬の測定方法（スタンダードと個体の違い） ・体長、体高、胸囲、胴囲、正姿勢について
45～46	繁殖学基礎① ・基礎 ・発情生理 ・交配の流れと精液組成 ・発情犬と雄犬の反応
47～48	繁殖学基礎② ・妊娠とは ・偽妊娠とは ・妊娠診断 ・胎児の成長
49～50	繁殖学基礎③ ・分娩の管理 ・子犬の成長と管理 ・母犬の管理
51～52	給餌の重要性 ・餌量計算基礎 ・実例での計算練習
53～54	餌量計算（実践） ・担当犬の給餌量決定 ・犬種、季節における変化等 ・餌種変更方法
55～56	専攻学科の初回授業 科の目的、授業目標など
57～60	定期試験

動物形態機能学 I

動物看護科

1 年次

前期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

犬猫を中心に動物の身体の構造、機能を理解し、なりやすい疾患について学ぶ

■到達目標

犬猫の形態と機能、なりやすい疾患について理解する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	・形態機能学とは ・疾患学とは
2	骨格系① ・役割、形状、骨格名称、骨格分類、椎骨式
3	骨格系② ・代表的疾患【骨折、脱臼】
4	骨格系③ ・代表的疾患【股関節形成不全、軟骨形成不全、関節炎】
5	筋肉系① ・役割、構造、筋肉・腱・靱帯違い ・代表的疾患【前十字靱帯断裂、多発性筋炎】
6	神経系① ・役割、構造 ・代表的疾患【椎間板ヘルニア（ヘルニアの種類）、水頭症、泉門、癲癇】
7	内分泌系① ・役割、構造
8	内分泌系② ・代表的疾患【クッシング症候群、アジソン病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症】
9	感覚器系①【聴覚】 ・役割、構造 ・代表的疾患【外耳炎、耳血腫】
10	感覚器系②【視覚】 ・役割、構造 ・代表的な疾患【白内障、緑内障、角膜炎、瞬膜腺突出】
11	感覚器系③【味覚】 ・役割、構造 ・代表的な疾患【歯石、歯周病、口内炎】
12	感覚器系④【皮膚感覚】 ・役割、構造 ・代表的疾患【膿皮症、脂漏症】
13	感覚器系⑤【嗅覚】 ・役割、構造 ・代表的疾患【鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血】

14	基礎、骨格系、筋肉系、神経系、内分泌系、感覚器系の復習
15	消化器系① ・役割、構造
16	消化器系② ・代表的疾患【下痢、便秘、肛門嚢炎、腸閉塞、巨大食道】
17	肝胆道系① ・役割、構造 ・代表的疾患【黄疸、肝炎、肝リピドーシス】
18	膵臓① ・役割、構造 ・代表的疾患【インスリノーマ、膵炎、糖尿病】
19	泌尿器系① ・役割、構造 ・代表的疾患【膀胱炎、ネフローゼ症候群、尿路結石症】
20	腎臓① ・役割、構造 ・代表的疾患【腎不全、腎盂腎炎】
21	生殖器系①（雄） ・役割、構造 ・代表的疾患【前立腺肥大、包皮炎、精巣停留】
22	生殖器系②（雌） ・役割、構造 ・代表的疾患【膣炎、子宮蓄膿症、乳腺腫瘍】
23	消化器系、肝胆道系、膵臓、泌尿器系、腎臓、生殖器系の復習
24	呼吸器系① ・役割、構造 ・代表的疾患【気管支炎、肺炎、気管虚脱、水胸・気胸】
25	循環器系① ・役割、構造
26	循環器系② ・代表的疾患【心不全、門脈体循環シャント】
27	血液・リンパ系① ・役割、構造 ・代表的疾患【高血糖、低血糖、貧血、リンパ腫】
28	腫瘍系疾患① ・腫瘍とは、分類、特徴、ステージ、予防、治療
29	呼吸器系、循環器系、血液・リンパ系、腫瘍系疾患の復習
30	試験対策

動物感染症学 I

動物看護科

1 年次

前期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

病原体になりうる微生物の感染予防方法を理解し、動物に健康維持に努める

■到達目標

ズーノーシス、寄生虫等の生態等を理解し、感染予防方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	下痢と嘔吐 ・観察する内容 ・種類、原因、対処法
2	応急処置が必要な症例①【日射病・熱射病・低体温症】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
3	応急処置が必要な症例②【胃拡張・胃捻転】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
4	応急処置が必要な症例③【外傷、火傷、骨折】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
5	応急処置が必要な症例④【痙攣、発作、溺れる、窒息、ショック】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
6	応急処置が必要な症例⑤【眼球突出、感電、中毒】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
7	寄生虫 ・寄生虫とは、宿主、寄生虫の分類 ・腸管内寄生虫の基礎知識 ・外部寄生虫の基礎知識
8	腸管内寄生虫①【回虫、鉤虫、鞭虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
9	腸管内寄生虫②【瓜実条虫、マンソン裂頭条虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
10	腸管内寄生虫③【コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジア】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
11	内部寄生虫【フィラリア】 ・特徴、寄生部位、症状、ライフサイクル ・予防、投薬の注意 ・診断、治療、など
12	外部寄生虫①【ノミ、マダニ、アカラス】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
13	外部寄生虫②【ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、ツメダニ、ハジラミ】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染、注意事項、予防方法

14	滅菌と消毒① ・用語説明
15	滅菌と消毒② 【滅菌法】【消毒法】
16	滅菌と消毒③ 【消毒法】
17	滅菌と消毒④ ・各消毒薬の効果的な使用方法
18	不妊措置 ・犬猫の繁殖制限、目的、子供を産ませない方法(各方法利点・欠点)
19	ワクチンプログラム ・ワクチンとは、必要性、接種時・後の注意点、副作用、ワクチンの種類
20	狂犬病ワクチン・混合ワクチン ・それぞれの特徴 ・ワクチンプログラム ・混合ワクチンの種類・選択方法
21	犬の混合ワクチンで予防できる感染症
22	猫の混合ワクチンで予防できる感染症
23	幼齢動物の管理
24	高齢動物の管理
25	ズーノーシス① ・ズーノーシスとは ・学ぶ意義 ・狂犬病 ・猫ひっかき病
26	ズーノーシス② ・破傷風 ・トキソプラズマ ・皮膚糸状菌症 ・幼虫移行症
27	ズーノーシス③ ・ノミ刺し症 ・アニサキス症 ・食中毒を引き起こす病原体 ・レプトスピラ
28	ズーノーシス④ ・オウム病・マダニが媒介するズーノーシス ・ズーノーシスが増加した要因、予防方法
29～30	試験対策

動物健康管理

動物看護科

1 年次

前期

15 時間

必修

共通科目

1 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

健常な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、飼い主指導に活かす

■到達目標

犬猫の健康管理に必要な日常ケア方法、適正給餌方法を理解する

■成績評価の方法等

出席点、試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1	美容の必要性 ・グルーミングとは ・健康管理上の必要性と美容的側面
2	グルーミング用品の基礎知識 ・クリッパー ・趾裏、お腹、肛門クリップ説明
3	鉋説明 趾周りカット ・方法、注意事項
4	部分カット説明 ・桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳の飾り毛、尾のカット
5	スピードトリミング ・スピードトリミングとは ・アタッチメントコームの説明
6	リボン付け ・つけ方説明
7	グルーミング時に起こりうる事故 ・事故、処置法、予防
8	ライセンス前復習
9	・給餌学とは ・食餌の目的 ・食餌を与える上で考慮すべき点
10	食餌の種類 ・利点、欠点 ・フードを選択 ・市販フード表示、購入時・後の注意点
11	食餌の回数や量を決めるにあたっての注意点 ・飲み水の必要性 ・給餌の際注意する事(犬・猫)
12	犬猫の食性 ・食欲増進方法 ・犬猫に与えてはいけないもの①
13	・犬猫に与えてはいけないもの② ・ライフステージ別の管理

14	栄養素①(炭水化物、脂質、タンパク質) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状
15	栄養素②(ビタミン、ミネラル、水) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状

動物医療関連法規Ⅰ

動物看護科

1 年次

前期

15 時間

必修

共通科目

1 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

動物愛護及び管理に関する法律等の責務や規制事項を学ぶ

■到達目標

動物に関わる法規について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	法律とは
3～4	動物の愛護及び管理に関する法律① ・法のあゆみ ・目的(概要) ・飼主の責任 ・動物取扱業の規制
5～6	動物の愛護及び管理に関する法律② ・第一種取扱業と第二種取扱業 ・動物取扱責任者、展示方法、販売方法
7～8	動物の愛護及び管理に関する法律③ ・特定動物 ・危険動物の飼養規則 ・犬及び猫の引き取り措置等
9～10	動物の愛護及び管理に関する法律④ ・負傷動物の通報 ・実例と対処法 ・災害時の対応
11～12	その他の動物関連法規 ・身体障害(害)者補助犬法 ・狂犬病予防法 ・犬等の輸出入検疫規則 他
13～14	社会人として知っておくべき法律 ・個人情報の保護に関する法律 ・労働基準法 ・労働安全衛生法 他
15	定期試験

動物行動学

動物看護科

1 年次

前期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

- ・ 基本理念、本能行動の理解、行動発現のしくみ、犬と猫の主な問題行動と対処法を学ぶ
- ・ 犬種の特徴や性格を学ぶ

■到達目標

- ・ 犬の本能行動、行動心理を理解する
- ・ 各グループ、犬種の特徴性格を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	第 1 章 動物行動学の基本理念 ・ 学習をする目的 ・ 犬と猫の進化と家畜化
2	第 2 章 維持行動 ・ 接食行動、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休息行動 ・ 護身行動
3～5	第 3 章 社会行動 ・ 社会行動とは
6	第 3 章までの復習 ・ 確認テストの実施
7	第 4 章 行動発現の仕組み ・ 行動の動機づけ ・ 行動の周期性
8～9	第 5 章 行動の発達と学習 ・ 犬の発達段階、猫の発達段階 ・ 学習原理
10	第 5 章までの復習 ・ 確認テストの実施
11～12	第 6 章 問題行動と行動診療 ・ 問題行動とは ・ 行動修正法とは ・ 問題行動療法で用いるその他の方法
13～16	第 7 章 犬と猫における主な問題行動 ・ 犬・猫の攻撃行動 ・ 恐怖・不安行動と治療・猫の排泄行動の治療
17	復習時間 ・ 確認テストの実施
18～19	犬の飼育管理について ・ 血統書説明 ・ 犬体用語 ・ 各グループ特徴説明
20	第 1 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明

21	第2グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
22	第3グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
23	第4グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
24～25	第5グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第6グループ説明 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
26～27	第7グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第8グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
28～29	第9グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第10グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
30	定期試験

伴侶動物Ⅰ

動物看護科

1 年次

後期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

エキゾチックアニマルや猫の生理、生態等から適正使用方法及び主な疾病について学ぶ

■到達目標

エキゾチックアニマルの特徴、猫種ごとの特徴等を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～2	猫の歴史 ・飼育管理 ・適正な飼育について
3	猫の行動
4～6	血統書について ・顔の形 ・体型タイプ ・目の色、形 ・毛色と模様
7～10	各猫種説明 特徴、原産地、サイズ、沿革
11～12	ウサギ ・分類、品種、形態、習性、生理 等
13	ハムスター、モルモット ・分類、品種、形態、習性、生理 等
14	チンチラ、フクロモモンガ ・分類、品種、形態、習性、生理 等
15	ピグミーヘッジホッグ、デグー ・分類、品種、形態、習性、生理 等
16	スナネズミ(トビネズミ) マウス(ラット) ・分類、品種、形態、習性、生理 等
17	フェレット ・分類、品種、形態、習性、生理 等
18～19	鳥類基礎知識 ・分類、品種、形態、構造 等
20	フィンチ類 ・分類、品種、形態、習性、生理 等
21	インコ・オウム類 ・分類、品種、形態、習性、生理 等

22	<p>すり餌鳥、ニワトリ、ハト、水菌類、猛禽類</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
23	<p>両生類の基礎知識</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
24	<p>カエル、サンショウウオ、イモリ</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
25～26	<p>爬虫類の基礎知識</p> <p>・分類、品種、形態、構造 等</p>
27	<p>カメ、ヘビ</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
28	<p>トカゲ、カメレオン、イグアナ</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
29	<p>復習</p>
30	<p>定期試験</p>

公衆衛生学

動物看護科

1 年次

後期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

演習

専門科目

■授業の概要

人と動物との間に感染する疾患、その治療法や予防法、滅菌、消毒について学ぶ

■到達目標

各種感染症の感染経路、予防方法、治療方法などを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～20	公衆衛生の実施 各種消毒の説明、実施
21～22	獣医療における公衆衛生の概要 公衆衛生の目的、公衆衛生行政 公民衛生動向、One Health と獣医療の関係 飼い主指導の基盤として公衆衛生業務における看護師の役割
23～25	疫学と疾病予防 感染の成立、疾病・健康障害の発生要因、 疫学調査法、予防疫学、ズーノーシスとその対策 狂犬病予防
26～27	環境衛生 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点、 化学物質によりもたらされる健康障害 放射線による汚染と障害 衛生動物による人や動物への被害と対策 動物による咬傷の現状と健康障害 廃棄物の取扱い
28	食品衛生 食品衛生と食中毒、動物性食品の衛生、 食品衛生管理手法（HACCP）
29	院内感染 院内感染とは、伝染性疾患を疑う主な条件、対策
30	定期試験

動物人間関係学

動物看護科

1 年次

後期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物が人間社会で果たしている役割、背景、歴史などについて学び、又社会人マナーについても学ぶ

■到達目標

動物が人間社会で果たしている役割や背景、歴史などを理解する

■成績評価の方法等

出席率、検定試験（秘書検定 3 級）

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	人間と動物の関わり 動物の飼育・利用の歴史 文学・芸術における動物 海外と日本の動物とのかかわりの相違
3～4	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育 動物との接触が人に与える身体的・心理的影響 それぞれの目的と内容
5～6	使役動物 歴史と福祉 補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の定義、歴史、現状 補助犬の育成課程、適正 補助犬の施設や社会の受け入れ体制 その他使役犬(災害救助犬、警察犬、探知犬など)の種類と特徴、現状
7～30	秘書検定対策

動物臨床検査学

動物看護科

1 年次

後期

60 時間

必修

専門科目

4 単位

講義

専門科目

■授業の概要

様々な臨床検査の原理や方法、意義、検体などの正しい扱い方などを学ぶ

■到達目標

各種臨床検査方法、意義等を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～4	全身検査 眼、耳、口、皮膚、被毛、鼻、肛門、爪、歩様、バイタル
5～6	糞便検査（直接法） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
7～8	糞便検査（浮遊集卵法） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
9～10	耳垢検査（直接法・耳鏡） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
11～12	耳垢検査（染色塗抹法） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
13～14	尿検査（尿検査試験紙、尿沈渣） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
15～16	皮膚検査（スタンプ、掻き取り） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
17～18	被毛検査 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
19～20	血液検査 I（染色塗抹法） 用意する物、発見できるもの ・手順、注意点
21～58	検査の実施 動物園の生体を使用し検査を実施する
59～60	定期試験

動物医療コミュニケーションⅠ

動物看護科

1 年次

後期

15 時間

必修

専門科目

1 単位

演習

専門科目

■授業の概要

日常健康管理に関わる飼主説明・教育や問診などについて学ぶ

■到達目標

飼い主対応方法、飼い主説明などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	病院業務 一連の流れ
2～3	・問診 問診とは、問診のポイント、実施
4～6	・視覚的印象の重要性 ・待合室でのコミュニケーション ・診察室でのコミュニケーション ・精算時のコミュニケーション
7～8	カルテ用語
9～14	台本作成 ・基本的な問診質問事項台本を考える ・フローチャート作成
15	定期試験

野生動物

動物看護科

1 年次

後期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

演習

専門科目

■授業の概要

日本の野生動物の種類と保全等について学ぶ

■到達目標

日本の野生動物の種類と保全について理解する

■成績評価の方法等

出席点、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～3	野生動物の基礎 生物多様性、野生動物の保全の意義、 野生動物による鳥獣害の現状、 飼育下繁殖及び動物園などの役割
4～11	野生動物の分類と生物多様性 動物分類、 日本在来動物の生体及び生息環境 種の多様性、遺伝子の多様性、生態系の多様性、 生物多様性条約及び国家戦略
12～15	絶滅危惧種の保全 絶滅危惧種の定義及びレッドリスト、 絶滅危惧となる原因、絶滅危惧種の保全方法
16～19	動物園 展示動物の意義と動物園の役割、 動物園の個体群管理、動物園の行動管理・施設管理
20～23	外来生物 外来種の定義及び含まれる動物 外来生物が在来生態系に及ぼす影響 外来生物への対策
24～27	テーマを設けディスカッション形式で自分の考えを発表
28～30	レポート作成

動物福祉・倫理

動物看護科

1 年次

後期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物愛護や動物福祉などについて学ぶ

■到達目標

動物愛護や動物福祉などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	生命倫理 生命倫理、生命倫理と獣医療の関わり
2～4	動物福祉の概念 動物福祉とは、ファイブフリースダム、近代及び現代の動物愛護運動、動物の権利・動物福祉の思想、動物福祉に関する法と行政の仕組み概要、安楽死の考え方
5～9	伴侶動物の福祉 伴侶動物の適正飼育と福祉上の問題、伴侶動物飼育の現状、伴侶動物により人間がうける恩恵と問題点、伴侶動物の適正飼育、ペット産業の種類と内容、動物保護活動の現状と課題、飼育法規や殺処分問題、対策、動物虐待の定義と現状、対策、飼育動物の災害時の対応
10	産業動物の福祉 産業動物における福祉上の問題、国際的な福祉基準、産業動物の福祉向上の具体方法
11	実験動物の福祉 実験動物における福祉上の問題、3Rの概念と具体的方法
12	展示動物の福祉 展示動物における福祉上の問題、展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容
13～25	ゼミ活動
26～30	動物福祉についてのレポート作成

伴侶動物Ⅱ

動物看護科

1 年次

後期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

講義

専門科目

■授業の概要

犬猫の管理方法やエキゾチックアニマルの管理方法や生態・習性などについて学ぶ

■到達目標

犬、猫、エキゾチックアニマルの管理方法などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	犬猫の飼育管理方法
3～4	ウサギ ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・機能形態（各器官の役割、構造） ・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
5～6	ハムスター、モルモット ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・機能形態（各器官の役割、構造） ・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
7～8	チンチラ、フクロモモンガ ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・機能形態（各器官の役割、構造） ・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
9～10	ビグミーヘッジホッグ、デグー ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・機能形態（各器官の役割、構造） ・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
11～12	スナネズミ（トビネズミ） マウス（ラット） ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・機能形態（各器官の役割、構造） ・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
13～14	フェレット ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・機能形態（各器官の役割、構造） ・主な疾患（原因、症状、予防、治療）

15	<p>鳥類の機能形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割
16	<p>フィンチ類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
17	<p>インコ・オウム類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
18	<p>すり餌鳥、ニワトリ、ハト、水菌類、猛禽類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
19	<p>カエルの機能形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割
20	<p>カエル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
21	<p>サンショウウオ、イモリ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
22	<p>ヘビの機能形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割
23	<p>ヘビ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
24	<p>トカゲの機能形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割
25	<p>トカゲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
26	<p>カメの機能形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割
27	<p>カメ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
28	<p>魚類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割・分類、品種、形態、習性、生理 ・飼養上必要な施設、機材及び環境・飼い方のポイントと注意点 ・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）
29	<p>昆虫類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、役割・分類、品種、形態、習性、生理・飼養上必要な施設、機材及び環境 ・飼い方のポイントと注意点・健康と安全の管理・主な疾患（原因、症状、予防、治療）

30	定期試験
----	------

動物臨床看護学総論Ⅰ

動物看護科

1 年次

後期

15 時間

必修

専門科目

1 単位

演習

専門科目

■授業の概要

動物看護過程などについて学ぶ

■到達目標

動物看護過程などを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	動物看護過程 目的、意義、方法、各ステップ、アセスメント 事例ごとの個別性、情報の整理、問題の明確化、動物看護計画の立案
3～9	動物看護過程の実施、評価
10	終末期患者動物の看護、安楽死Ⅰ ・安楽死の定義・安楽死の決定・終わりが近づいてきたとき・終わりのあと ・安楽死のストレス
11～12	終末期患者動物の看護、安楽死Ⅱ グループディスカッション形式にて行う ・終末期患者動物へはどのような看護をしていくべきか ・安楽死についてどのように考えるか
13	ペットロスサポートⅠ ・悲しみについて・悲しみの過程・悲しみの過程を複雑にする可能性のある要因 ・ケアにあたって
14	ペットロスサポートⅡ ・対処法 ・例題を出題し、その際どのように対応していくか考えさせる
15	定期試験

インターンシップ

動物看護科

1 年次

通年

30 時間

必修

専門科目

1 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

インターンシップでは、お客様に対する接客技術を習得することを目的とし、提携先の株式会社アイピーシーにて実務研修を行う

■到達目標

実務研修を通して接客技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～10	インターンシップの必要性、業務内容の把握、あいさつの徹底
11～20	積極的にお客様に声をかける
21～30	報告・連絡・相談の徹底を図る スキルアップを図る

飼育管理実習Ⅰ

動物看護科

1 年次

通年

90 時間

必修

専門科目

3 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する

■到達目標

多種・多頭の生体の管理方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	【ステップ1】 基本的な犬の扱い方や飼育方法を学ぶ 【ステップ2】 ケア技術の強化、消毒等の施設美化のスキル向上 当番制で実施するため、報連相のスキルアップ 【ステップ3】 各自の苦手克服を目的に、P D C Aを実践する

動物飼育実習Ⅰ

動物看護科

1 年次

前期

45 時間

必修

専門科目

1 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常ケア等を通し基礎力を養う

■到達目標

展示動物の管理方法の基礎力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～45	基本的な犬の扱い方と健康管理を学ぶ

動物飼育実習Ⅱ

動物看護科

1 年次

前期

90 時間

必修

専門科目

3 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理濃色育成を目指す

■到達目標

担当犬に対しての日常ケア、備品管理等の管理能力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	担当犬に対しての飼育記録のとり方 バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な実践

院内コミュニケーション

動物看護科

1 年次

後期

75 時間

必修

専門科目

2 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

受付業務、診療補助、スタッフ・クライアントコミュニケーションなどを実施する

■到達目標

受付業務、診療補助、スタッフ・クライアントとのコミュニケーション力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、検定試験（ケアコミュニケーション検定）

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～5	健康の保持・増進 健康診断の内容・目的 基本的グルーミング 被毛の手入れ 適切な飼育環境やストレス緩和方法
6～30	診察補助 診察における看護師の役割 問診 保定 身体検査、アセスメント項目
31～35	検査・処置 注射器の取扱い、管理方法 採血・採尿の目的・方法 穿刺、吸引について 各種カテーテル挿入について 酸素吸入について
36～45	投薬 薬の処方について 内服薬の使用法 薬剤の注射法 外用薬の使用法 薬浴について 投薬前後の注意事項
46～48	輸液 輸液の適応とリスク 輸液計画 各種輸液剤の特性や適応 輸液中のモニタリング 輸血 輸血の適応とリスク 輸血計画 クロスマッチ試験と血液型 各種輸血製剤の適応、特性 輸血の手技 輸血の副作用
49～50	電話でのコミュニケーション 電話対応の常識、取り次ぎ電話、電話でクレームの予防、実施
51～55	送付物 案内状、詫び状、季節の挨拶状 等
56～60	クレーム対応 対応基本術、台本作成、実施
61～75	ケアコミュニケーション検定対策

動物内科看護学実習

動物看護科

1 年次

後期

90 時間

必修

専門科目

2 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

犬猫の日常的な健康管理などについて実施する

■到達目標

犬猫の日常的な健康管理方法などを身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価項目（あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等）

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	動物の基本的な取り扱い 動物種に応じた安全なハンドリング 動物を安全に散歩・運動 基本的グルーミング 動物の被毛を適切に手入れ 動物の飼育環境を適切に整備 状況に応じた管理 身体検査 全身状態の評価 バイタルサインの評価

ペット一般教養Ⅱ

動物看護科

2 年次

通年

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

教養的科目

■授業の概要

就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説

■到達目標

就職活動の基本を理解し、適切な準備と活動ができる

社会人に求められるコミュニケーションはどのようなものか理解し、卒業後の会社生活に活かすことができる

■成績評価の方法等

出席点、課題提出

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～8	就職活動セミナー 企業調査などの事前準備、活動する際のマナー、面接対策など
9～12	卒業研究について 研究の進め方、卒業レポートの書き方など
13～26	ペットビジネス 仕事で使う日本語、ビジネス用語、組織学など
27～30	社会人マナー 新入社員の心構え、社内マナーなど

特別活動Ⅱ

動物看護科

2 年次

通年

60 時間

必修

共通科目

2 単位

実習

教養的科目

■授業の概要

主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。

年間行事を通し、グループ活動及び実行委員によるリーダーシップの育成

■到達目標

協調性を高める。物事に対する事前準備の確認や計画性の向上

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～5	球技大会 新入生との親睦を深めることを目的に実施する
6～35	スクールフェスティバル 実行委員をリーダーに学生企画、出店の準備から本番まで行う
36～45	わんにゃんドーム IPC ブース内で、学生企画を実践する
46～55	ゼミ発表 校内予選を行い、選抜された班は IPC グループ姉妹校との決戦に挑む
56～60	卒業準備 卒業に関わる手続き、卒業後のガイダンスなど

ゼミナール

動物看護科

2 年次

通年

30 時間

必修

共通科目

2 単位

演習

専門基礎科目

■授業の概要

課題研究と連動して動物の生体を研究する。プレゼン技術向上。

■到達目標

社会人スキルの向上及びコミュニケーション力の向上

卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～30	テーマ決め、計画書作成 計画書に則った実験を行う データ収集 プレゼンテーション作成

課題研究

動物看護科

2 年次

通年

45 時間

必修

共通科目

3 単位

演習

専門基礎科目

■授業の概要

卒業研究及び卒業論文の作成

■到達目標

問題把握能力の向上

■成績評価の方法等

出席点、卒業レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～45	ゼミナールにてデータ収集を行った資料を使用し、卒業レポートを作成する

動物形態機能学Ⅱ

動物看護科

2 年次

通年

90 時間

必修

専門科目

6 単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物の生命維持の仕組みを形態、機能、生化学の面から学ぶ

■到達目標

動物の生命維持の仕組みを理解する

■成績評価の方法等

出席点、IPCライセンスVNC1級各論I

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	解剖生理学とは、生体の成り立ち
2～3	細胞の構造と機能
4～5	動物の組織
6～7	体液と尿
8～11	骨格系 役割、骨の形状、骨の基本構造、骨の微細構造、骨の成長、骨の連結、主な骨格
12 ～ 14	筋肉系 役割、骨格筋、心筋、平滑筋、筋繊維の微細構造、筋肉収縮のメカニズム、筋紡錘、腱紡錘、 筋肉のエネルギー、主な骨格筋、骨格筋以外の横紋筋
15～29	感覚器系 役割、感覚の順応、感覚の投影【視覚】【聴覚】【味覚】【嗅覚】【皮膚感覚】
30～33	循環器系 役割、構造、心、血管、血液循環の調節、主な動脈系、主な静脈系、冠状循環、胎子循環
34～37	呼吸器系 役割、構造、換気の仕組み、ガス交換、血液による酸素の運搬、血液による二酸化炭素の運搬、呼吸の周期性、肺換気量の調節
38～44	消化器系 役割、消化器系構造、歯の構造、消化管を支配する神経、消化器系への血液供給、消化管の運動と調節、消化液、肝臓、膵臓の役割、構造、消化、吸収、腸内細菌叢
45～48	泌尿器系 役割、構造、腎実質の微細構造、尿生成の仕組み、排尿の仕組み
49～54	生殖器系 役割、生殖器の構造、性の分化、性腺機能の調節、性周期、妊娠、分娩
55～60	内分泌系 役割、内分泌系器官とホルモンの作用、内分泌系の調節、視床下部、下垂体、各種の特徴

61～64	神経系 役割、ニューロン、有髄神経と無髄神経、電気的伝導、化学的伝達、神経伝達物質、中枢神経(大脳、間脳、中脳、橋、小脳、延髄、脊髄、末梢神経)
65～68	免疫系 自然免疫、獲得免疫、抗原と抗体、リンパ球、細胞性免疫、体液性免疫、中枢性リンパ組織、末梢性リンパ組織、アレルギー、自己免疫疾患
69～72	血液・リンパ系 役割、構造、血液、リンパ系、生体防御の仕組み
73～89	復習
90	試験

動物病理学

動物看護科

2 年次

前期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

講義

専門科目

■授業の概要

様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化などを学ぶ

■到達目標

様々な疾患が生体にもたらす変化を理解する

■成績評価の方法等

出席点、I P C ライセンス V N C 1 級各論 I

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	・動物病理学とは・発病のメカニズム・変性・化生・委縮・肥大と過形成
3～5	炎症とオータコイド ・炎症の発現機構・炎症の経過・炎症細胞と特徴・炎症の過程・炎症の分類 ・オータコイド・ヒスタミン・セロトニン・ブラジキニン・エイコサノイド ・血小板活性化因子
6～7	体温調節 ・変温動物と恒温動物・生体内の温度分布・体温調節の仕組み
8	脱水 ・水分の獲得、喪失・状態・原因・高張性、低張性
9	浮腫 ・状態・原因・炎症性、心疾患、静脈閉鎖、低蛋白血症
10	ショック ・状態・原因・低容量・血液量減少性ショック、心原生ショック、細菌性・敗血症性ショック、血管運動・閉塞性ショック
11	呼吸困難 ・状態・原因・肺性呼吸困難、心臓性呼吸困難、神経・筋性呼吸困難
12	咳 ・状態・原因
13～14	腫瘍 ・腫瘍とは・腫瘍の命名法・悪性腫瘍と良性腫瘍・腫瘍の発生と進展・腫瘍の発生機序 ・腫瘍の影響
15～29	試験対策
30	試験

動物薬理学

動物看護科

2 年次

通年

60 時間

必修

専門科目

4 単位

講義

専門科目

■授業の概要

薬物の体内動態と作用機序、臨床応用、副作用等について学ぶ

■到達目標

薬物の作用について理解する

■成績評価の方法等

出席点、試験、動物看護師統一認定資格

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～5	薬（医薬品）を扱うための基本的知識
6～10	輸液
11～14	感染症の薬
15～18	化学療法薬
19～21	炎症とアレルギーの薬
22～25	消化器の薬
26～30	血液・免疫系の薬
31～34	泌尿器系の薬
35～38	呼吸器系の薬
39～42	オータコイド、代謝・内分泌系の薬
43～46	麻酔に関する薬
47～48	投薬量計算
49～50	各種投薬法
51～59	飼い主説明
60	定期試験

動物感染症学Ⅱ

動物看護科

2 年次

通年

60 時間

必修

専門科目

4 単位

講義

専門科目

■授業の概要

微生物などの生物学的特性、伝播様式、感染防御に関わる免疫学の基礎などについて学ぶ

■到達目標

微生物などの特性や免疫学などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、I P C ライセンス V N C 1 級各論 I、総論

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	感染症とは、感染の形態、感染経路、感染症の予防、感染症の分類
3～4	内部寄生虫Ⅰ 回虫、鉤虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
5～6	内部寄生虫Ⅱ フィラリア、蟯虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
7～8	内部寄生虫Ⅲ 鞭虫、糞線虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
9～10	内部寄生虫Ⅳ 条虫、マンソン裂頭条虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
11～12	内部寄生虫Ⅴ コクシジウム、腸トリコモナスの特徴、感染経路、症状、予防、治療
13～14	内部寄生虫Ⅵ ジアルジア、トキソプラズマの特徴、感染経路、症状、予防、治療
15～16	内部寄生虫Ⅶ 吸虫、蟯虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
17～18	外部寄生虫Ⅰ ノミ、マダニの特徴、感染経路、症状、予防、治療
19～20	外部寄生虫Ⅱ アカラス、ツメダニの特徴、感染経路、症状、予防、治療
21～22	外部寄生虫Ⅲ カイセン、ミミカイセンの特徴、感染経路、症状、予防、治療
23～24	外部寄生虫Ⅳ シラミ、ハジラミの特徴、感染経路、症状、予防、治療
25～26	原虫とは、構造、原虫による病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
27～28	真菌とは、構造、真菌による病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）

29～30	細菌とは、構造、細菌の増殖と代謝、グラム染色、 細菌による病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
31～32	リケッチアとは、構造、リケッチアによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
33～34	クラミジアとは、構造、クラミジアによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
35～36	ウイルスとは、構造、ウイルスによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
37～38	マイコプラズマとは、構造、 マイコプラズマによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
39～40	微生物検査 検体採取と取扱、微生物染色法、微生物培養法、抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法 薬剤感受性試験
41～45	免疫学の基礎と応用 免疫担当細胞とその役割、自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患、ワクチンの原理、種類、プログラム
46～49	滅菌と消毒 各種滅菌法と消毒法の復習
50～59	主なブーノーシスの症状、治療法、予防法の復習
60	定期試験

動物臨床栄養学

動物看護科

2 年次

通年

60 時間

必修

専門科目

4 単位

講義

専門科目

■授業の概要

5 大栄養素やライフステージ別の給餌方法等を学ぶ

■到達目標

5 大栄養素やライフステージ別の給餌方法などを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	動物看護と栄養学 栄養素Ⅰ
3～4	栄養素Ⅱ
5～6	栄養素Ⅲ
7～8	犬と猫の栄養要求の違い
9～10	ライフステージ別の栄養管理Ⅰ ・繁殖期（妊娠期・授乳期）・成長期（哺乳期・離乳期・離乳後の成長期）
11～12	ライフステージ別の栄養管理Ⅱ ・成犬、成猫期（維持期）・高齢期
13～14	ペットフード表示の見方 栄養状態の評価、エネルギー
15～16	ペットフードの種類 フードに含まれるその他の成分
17～18	ペットフード市場、ペットフードの管理、ペットフードに関する規則
19～20	嗜好性をあげる為の給餌、強制給餌方法、注意点
21～22	嗜好性をあげるための給餌の実施
23～24	強制給餌の実施
25	特別療法食とは、病院にて取扱われているフード会社と特徴
26～27	尿路疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
28～29	心疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点

30～31	消化器疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
32～33	腎臓疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
34～35	肝臓疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
36～37	口腔疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
38～39	糖尿病 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
40～41	食物アレルギー ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
42～43	関節疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
44～45	癌 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
46～47	脳の加齢と認知障害 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
48～49	甲状腺機能亢進症 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
50～51	医療面接 ・医療面接の目的・コミュニケーションの基本・栄養指導医療面接の基本的な流れ
52～53	経管・静脈栄養法 経管栄養法の種類、特徴、方法、静脈栄養法の種類、特徴、方法
54～55	経管・静脈栄養法の実施
56～59	飼主さんへの栄養指導
60	定期試験

動物医療関連法規Ⅱ

動物看護科

2 年次

前期

15 時間

必修

専門科目

1 単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ

■到達目標

動物や獣医療に関連する法規について理解する

■成績評価の方法等

出席点、IPCライセンスVNC1級総論

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	法の基礎知識 動物の愛護及び管理に関する法律
3～4	獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、家畜保健衛生所法
5～6	飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律、ペットフード安全法 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、狂犬病予防法
7～8	と畜場法、化製場等に関する法律、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律 食品衛生法、身体障害者補助犬法、
9～10	絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律、ラムサール条約、ワシントン条約 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律
11～12	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律、生物多様性基本法、 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
13～14	医薬品医療機器等の品質有効性及び安全性の確保などに関する法律、労働基準法、 製造物責任法、個人情報の保護に関する法律
15	試験

動物繁殖学

動物看護科

2 年次

後期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

講義

専門科目

■授業の概要

繁殖に関わる形態機能、および妊娠、分娩、新生児管理などについて学ぶ

■到達目標

繁殖に関わる形態機能、妊娠、分娩、新生児管理などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～3	生殖器の形態と機能（犬猫）
4～6	繁殖の意義、発情（犬猫）、交配（犬猫）、人工授精（犬猫）
7～10	妊娠（犬猫）
11～13	分娩準備（犬猫）、正常分娩（犬猫）
14～16	異常分娩（犬猫）、難産のケーススタディ（犬猫）、難産の頻度と対応（犬猫）
17～18	帝王切開の実施基準（犬猫）
19～20	分娩後の状態（犬猫）
21～23	子犬・猫の管理、新生子の看護、狼爪切除、断尾、断耳、母乳、母犬・猫管理
24～26	性格形成（犬猫）、社会化（犬猫）、遊び（犬猫）
27～29	遺伝
30	定期試験

動物臨床看護学総論Ⅱ

動物看護科

2 年次

前期

15 時間

必修

専門科目

1 単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物看護過程から、事例ごとの個別性応じた動物看護の基本的な考え方を学ぶ

■到達目標

事例ごとの個別性に応じた対応方法などの基本的な考え方を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～4	診療記録 カルテの作成方法、 動物看護記録の目的別、書式に応じた作成法
5～8	動物看護業務 チーム獣医療における看護師の役割 ケアの標準化 事故管理・防止について 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導
9～12	ターミナルケア 目的、意義 QOL・ホスピス・緩和ケア エンゼルケア
13～14	動物看護過程の実施、評価
15	定期試験

動物臨床看護学各論Ⅱ

動物看護科

2 年次

通年

120 時間

必修

専門科目

4 単位

実習

専門科目

■授業の概要

様々な疾患の病態生理を理解し、引き起こされる症状、処置、治療などについて学ぶ

■到達目標

疾患別の症状、処置、治療などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、I P C ライセンス V N C 1 級各論Ⅱ

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	疾患学とは、疾患学を学ぶにあたって
3～7	正しい診断へのステップ バイタルサイン、体重、全身検査
8～12	骨格系疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・各疾患の状態、原因、予防、治療、看護
13～16	筋肉系疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
17～21	感覚器系【視覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
22～28	感覚器系【皮膚感覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
29～32	感覚器系【聴覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
33～37	循環器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
38～42	呼吸器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
43～52	消化器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護

53～57	泌尿器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
58～62	生殖器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
63～67	内分泌系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
68～72	神経系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
73～77	血液・リンパ系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
78～82	感染性疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
83～87	がん疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・悪性腫瘍の特徴・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
88～119	試験対策 各種疾患特徴、治療、看護の注意など
120	定期試験

動物医療コミュニケーションⅡ

動物看護科

2 年次

前期

30 時間

必修

専門科目

2 単位

講義

専門科目

■授業の概要

スタッフとのコミュニケーション、又飼い主に対してのコミュニケーションなどについて学ぶ

■到達目標

飼い主とのコミュニケーションだけでなく、スタッフ同士のコミュニケーション方法も身につける

■成績評価の方法等

出席点、検定試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	飼主説明（来院時、往診時）、必要性、手順方法
2～4	疾病予防の説明
5～7	健康管理の説明
8～10	薬の説明
11～13	処方食の説明
14～18	各疾患の説明
19～20	手術の説明
21～23	アニコムレセプター
24～26	受付業務と物品購入、管理
27～30	検定試験対策

動物看護実習

動物看護科

2 年次

通年

120 時間

必修

専門科目

4 単位

実習

専門科目

■授業の概要

動物看護過程、疾患別看護などの実践を行う

■到達目標

動物看護過程、疾患別看護を実際に行うことで、その知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、IPCライセンスVNC1級各論Ⅱ各論Ⅲ

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	入院動物の看護Ⅰ ・準備する物・入院体制の確認・動物の受け入れ・入院環境の確認・観察のポイント
3～4	入院動物の看護Ⅱ ・動物を扱う際の注意点・食餌管理・運動と散歩・動けない動物のケア・輸液管理
5～6	入院動物の看護Ⅲ ・退院する時・ケージの衛生管理 健康な動物の預かり ・預かる時の確認事項・動物を預かる手順・ケアの内容
7～9	飼主説明 ・入院前の説明・入院中の説明・退院後の説明
10	在宅医療 ・在宅医療とは・在宅医療の特徴・酸素の供給・その他の便利なツール
11～13	看護計画 ・入院動物の看護計画（代表的な入院理由別）
14～17	ケア ・入院動物のケア方法（代表的な治療・処置別）
18	若齢動物のケアⅠ ・新生子のケア
19	若齢動物のケアⅡ ・新生の健康チェック
20	若齢動物のケアⅢ ・重症時の管理
21	子犬と子猫の行動発達 ・犬の行動発達・猫の行動発達
22	予防 ワクチン、フィラリア、デンタル、寄生虫、不妊手術
23	パピークラス 目的、利点、内容

24	高齢動物のケアⅠ ・ 高齢動物のケア
25～26	高齢動物のケアⅡ ・ 高齢動物の健康チェック ・ 身体的、性格的、行動的变化
27～28	高齢動物のケアⅢ ・ 重症時の管理・入院、預かり時の看護・褥瘡
29	食餌 ・ 健康面・しつけ面
30～49	リハビリテーション リハビリテーションの種類と方法、将来展望、リハビリテーションの実施
50～59	クライアントエデュケーションの実践 ・ 受付～会計まで流れ・敬語の使い方・アニコムレセプターの使い方・カルテ用語
60～69	保定 ・ 各種保定
70～119	看護実習 看護・介護実施
120	定期試験

動物臨床検査学実習

動物看護科

2 年次

通年

90 時間

必修

専門科目

2 単位

実習

専門科目

■授業の概要

各種検査、機器の扱いなどの実践を行う

■到達目標

各種検査の実施、機器を使用して検査を行い、より実践的な知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、IPCライセンスVNC1級各論Ⅱ

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	臨床検査とは 生体から得られる材料、スクリーニング検査、特殊検査
2～4	全身検査
5～10	糞便検査
11～14	尿検査
15～25	皮膚被毛検査
26～32	血液検査
33～34	骨髄検査 目的、検出できる異常、検査手順
35～36	X線検査 放射線に関する知識、撮影の為の予備知識、撮影にあたって
37～38	超音波検査 超音波に関する知識、超音波検査の予備知識、検査にあたって
39～40	心電図・血圧検査 心電図の原理と基礎、心電計の種類、検査の為の予備知識、心電図の読み方、検査の手順
41～42	内視鏡検査 内視鏡に関する知識、消化管内視鏡の予備知識、検査の手順
43～44	CT・MRI 検査 CT と MRI 検査の違い、CT 検査とは、MRI 検査とは
45～46	神経学的検査 姿勢反応と脊髄反射、脳神経検査法、神経学的検査の評価記録法
47～49	眼科検査 シルマー試験、フルオレセイン試験の検査手順、注意点、眼圧測定手順、注意点 眼底検査手順、注意点

50～51	細胞診と病理組織検査 細胞診断の目的と方法、病理組織検査の検体取扱法
52～53	顕微鏡 各部位名称、操作方法、管理方法
54～89	各種検査の実施
90	定期試験

動物形態学実習

動物看護科

2 年次

通年

60 時間

必修

専門科目

2 単位

実習

専門科目

■授業の概要

動物の形態、機能などについて模型などを通じて学ぶ

■到達目標

動物の形態、機能などを模型や生体などを通して学び、理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、IPCライセンスVNC1級各論II

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～59	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 スケッチや触診などでも確認
60	定期試験

動物外科看護学実習

動物看護科

2 年次

通年

90 時間

必修

専門科目

2 単位

実習

専門科目

■授業の概要

手術準備、術中、術後の管理、救急救命などの実践を行う

■到達目標

手術準備、術中、術後管理など実際に行うことで、より実践的な知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験、IPCライセンスVNC1級各論Ⅲ

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～6	外傷・創傷管理
7～11	手術前管理
12～16	手術中管理、麻酔
17～21	手術後管理、救急救命、理学療法
22～26	手術前管理、手術後管理 飼主説明
27～31	輸液管理 確認
32～89	手術 実施
90	定期試験

産業動物

動物看護科

2 年次

通年

45 時間

必修

専門科目

3 単位

講義

専門科目

■授業の概要

産業動物の歴史、品種、飼養管理方法及び畜産業など社会とのかかわりについて学ぶ

■到達目標

産業動物の歴史、品種、飼育管理方法などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～8	産業動物とは 馬の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
9～16	牛の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
17～24	綿羊・山羊の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
25～32	豚の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
33～40	鶏の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
41～44	日本の酪農業の概要（農場HACCP） 酪農業の概要、牛肥育業の概要、養豚業の概要、養鶏業の概要、主な畜産物
45	定期試験

実験動物

動物看護科

2 年次

通年

15 時間

必修

専門科目

1 単位

講義

専門科目

■授業の概要

実験動物の歴史、品種、飼育管理方法、動物実験との関わりについて学ぶ

■到達目標

実験動物の歴史、品種、飼育管理方法等について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～3	動物実験の理解と 3 R、遺伝的統御と微生物学的統御、実験動物の飼養管理 個体管理と記録、管理者の教育と安全
4	主な実験動物とその利用、飼養管理 イヌ
5	主な実験動物とその利用、飼養管理 ネコ
6	主な実験動物とその利用、飼養管理 ブタ、サル
7	主な実験動物とその利用、飼養管理 ウサギ、モルモット
8	主な実験動物とその利用、飼養管理 ラット、マウス
9	主な実験動物とその利用、飼養管理 その他の実験動物
10～14	実験動物について 各自実験動物について考えプレゼンする
15	定期試験

動物看護学総合実習

動物看護科

2 年次

通年

180 時間

必修

専門科目

6 単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

提携先の動物病院などで実践を行い、より実践的な技術・知識を習得する

■到達目標

実際の病院で実務を行い、即戦力なる知識・技術の習得を目指す

■成績評価の方法等

出席点、動物看護師統一認定資格

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～15	アイピーシー附属動物病院へ実習
16～30	宇野獣医科病院へ実習
31～179	病院業務の実践 アイピーシー保有犬の往診実習
180	定期試験